

金山町 議会だより

第192号

平成28年2月17日

発行 金山町議会

編集 議会だより編集特別委員会

〒968-0011

福島県大沼郡金山町大字川口字谷地393

☎ 0241-54-5341



1月27日に行われた東金山FM補完中継局（77.8MHz）本放送開始式
長谷川町長とラジオ福島半野社長によるスイッチ点灯

〔12月定例会のあらまし 会期／12月22日～25日〕

(ページ)

12月定例会 補正予算、辺地総合計画の変更、意見書…… 2～3

金山町振興計画後期基本計画の策定 …………… 4

一般質問に7人登壇 …………… 5～11



1月27日開催 63名が受講した「認知症サポーター養成講座」

関係者の「寸劇」を真剣に聞き入る受講者。寸劇は、自分の財布をしまい忘れ、家族を困らせる場合の対処法など。

12月定例会（初議会）

高齢者対策

などをただす

12月定例会は、12月22日から25日にかけて開催されました。金山町税条例の一部改正や平成27年度一般会計補正予算など10議案と議員提出議案3件が提案され、一部（金山町奨学資金貸与条例の一部改正については、内容を精査したいと議案撤回）を除き原案の通り可決されました。一般質問には7人の議員が登壇し、町政をただしました。

補正予算（議案審議）

集まって

ホットカフェ

問 ホットカフェ、集まって何やっているの。

答 住民課長 主に高齢者を対象に実施していますが、どなたでも来ていただけます。ただいかまいません。保健師を始め福祉や介護の専門家が対応しています。

す。生活するうえで不安や悩み事に対するアドバイスを行っています。

福祉の先進地視察内容は

問 老人福祉費に11万円の旅費。どこで何を見に行くの。

答 住民課長 一泊二日

で7名が研修する予算です。今は視察先が未定です。認知症に対する取り組みの先進地を視察する計画です。視察後に各種講習会等を開催し、町民全員が認知症のサポートになるような目標を持って事業を展開したいと考えています。

歯科診療 経営努力のあとが



「無料歯科相談」なども行っている
国保診療所の市川歯科医師

問 歯科外来収入が、106万円伸びた。経営努力された結果だと思いが、内容は。

答 住民課長 歯科外来については、町長と歯科医師との話し合いが今月も含めて3回持たれています。その中で、「患者の要望をできる限り聞いた診療をしてほしい」等、色々な話し合いがなされています。その成果

がある程度あらわれていると考えています。

農業の意見交換会 効果を出して

問 意見交換会があるよ
うだが、米価下落対策など具体的な話し合いがされるのか。

答 産業課長 農業委員、認定農業者、農業法人などの構成メンバーで

話し合いをします。農地集積や経営安定等について話し合います。

問 28年度予算に反映される取り組みか。

答 産業課長 会議は、1月下旬を予定しているのですが、28年当初は難しいですが、各委員と検討して行きます。

お酒のつまみに 赤カボチャの種

問 地域おこし協力隊の活動経費。作物成分検査に約7万円。内容は。

答 復興政策課長 赤カボチャの種が、食用にできないか、酒のつまみに活用できないか、日持ちするかなどということを検査します。(一財)日本食品分析センターに委託します。

中山間直接支払制度 変わったのか

問 今年度、第3期から第4期に変わったわけだが、内容は変わったのか。

答 産業課長 3期では、町と各集落(地区)

が協定を結んでいましたが、4期からは19地区を一つの協議会に集約し町と協議会で協定を結び事業を行っています。各集落は事務の軽減が図られたり集落協定の広域化支援と新たに200万円の加算金(協議会に交付)も受けられたりするなど、農家にとって有効な事業になりました。



保養センター関連議案 賛成6反対3で可決

辺地総合整備計画変更の議案については、賛成が6人反対が3人(上記写真)で可決されました。可決された議案は、保養センター改築工事の財源になる辺地債を増額しようとするものです。なお、この議案は、前回(9月定例会)否決になっていました。

陳情の採択 意見書の提出

◇公立小中学校の教職員数の充実・確保のための意見書の提出を求める陳情
(福島県教職員組合、両沼支部)

12月定例会では、議員提出議案として次の意見書を可決し関係機関に提出しました。
「子どもたち一人ひとりに対応した教育を推進し、保護者をはじめとする地域住民からのニーズに応えるためにも、教職員数の充実・確保を図ることが必要です。」

第四次金山町振興計画 後期基本計画（議案審議）

金山町の将来の目標を定めたものが、「金山町振興計画」です。今回議会で審議されたものは、第四次金山町振興計画の後期基本計画（平成28～32年度）です。議案審議の主なものをお知らせします。

思い反映させた 振興計画か

問 町長は、当選から一年がたった。この振興計画基本計画（後期計画）に町長の思いがどれだけ反映されたか。

答 町長 この基本計画に一応すべて入っています。優先課題を十分見極めながら実践に移して行きます。

地域おこし協力隊 定住させて

問 地域おこし協力隊は、良い制度だ。任期満了後に定住してもらえないように。

とができます。

問 人選が決まって、受け入れ先も決まった時点で、例えば町長なり、復興政策課長なりがその人たちに對して、「金山町はこういうところですよ」と。来たのはいいいけれども、「何だ、こういうところか」というような声が出ないように、ぜひ懇談を持って、金山町の実態を赤裸々に話して、受け入れ体制をとって、ぜひ成功する事業にしてもらいたい。

答 復興政策課長 金山町の魅力も十分に伝えるのとあわせて、冬の厳しさや、近くにコンビニがありませんとか、そういった住環境についても十分理解していただきた上で、その上で来ていただく隊員というのが地域にとつて望む人材だと思いますので、十分説明します。受け入れた後も、町長始め我々が色々な形で相談に乗って、スムーズな受け入れを進めていきたいと考えています。

問 観光の面で、宿泊施設が少なくなっている。農家民宿もあると思うが、とても数が少なく、大勢の人が泊まることもできないと聞いている。

答 産業課長 現在、町内には、民宿が10軒と旅館が5軒、農家民宿が5軒です。以前と比べるとかなり件数が減っています。これから交流人口を増やしながら宿泊者を増やすという中では、もう少し宿泊施設を増やす方が必要かと思っています。そ

宿泊施設が少ない 農家民宿は

問 観光の面で、宿泊施設が少なくなっている。

答 産業課長 現在、町内には、民宿が10軒と旅館が5軒、農家民宿が5軒です。以前と比べるとかなり件数が減っています。これから交流人口を増やしながら宿泊者を増やすという中では、もう少し宿泊施設を増やす方が必要かと思っています。そ



上横田で「農家民宿」を営む坂本利幸さん

の中で一番いいのが、今、議員が言われた農家民宿です。規制緩和が適用され営業許可が取りやすくなっています。ただ問題は、

宿泊できるのが「農家、空き部屋」二つの活用しかできません。しかし、農家民宿を増やしながら、今後、交流人口の拡大に向けて進めていきたいと思っています。農家民宿の場合については、ある程度、保健所等への申請事務もありますので、それについては町でも支援しながら進めていきたいと思っています。

**「ひとつこっぴ」起こす
応援します**

問 町内に浚渫会社をつくり、通年で浚渫を行うという考えはないか。官民挙げてつくる努力をしたらどうかと思うが。

答 町長 なかなか厳しい話だと思います。浚渫は、水上と陸上と両方あつて、お互いが担当してやっているわけです。水上のほうは地元業者では対応できないと思っています。

問 私も町内の業者では無理だと思う。来年、再来年という話ではない。新しい若い人たちが、そういった職場につける施策に取り組んでいただけなものかと。仮に、浚渫業者10名、ダンプで輸送する方10名を含めれば20名の雇用が生まれる。これを一般家庭に例えらると、お父さん、お母さん、子供2人、80名が生活できる受け皿が可能になってくる。

答 町長 今は「よーし、この機会にひとつこっぴ起こしてやろうか」という方が、この町で非常に少なくはなっているというのも事実です。時代の流れと私は感じています。そういう方があらわれれば、本当にバックアップしたいと思っています。



町内事業者では困難か



『只見川河川整備事業の早期着工を！』

一日でも早く着工できるように努力する

問 事業計画の説明会が各地区で開かれている。ダム災害の被災者は、23年7月29日と同様の出水があれば、再び家屋の浸水被害の恐れがあり、心配だ。一日も早い工事着工に向け以下伺う。

答 町長 洪水被害が最

も大きかった当金山町が発起人となり、会長となつた次第です。今後は会長として、国・県の予算確保に重点的に取り組み、一日も早く河川整備計画の事業が着工され、住民の安全・安心が確保できるように努力していきます。

問 ②着工に向けたスケジュールは。

答 町長 工法などが既

に決定した地区、例えば越川大川地区の対岸側等早い段階で工法が決定した地区については、来年度に用地測量を行い、事業用地の確保に向け動き出します。なお、工事着工については、早くて再来年と想定しています。

問 ③昭和44年災害の復旧事業では町職員を専属で配置した。町が地区の要

望をまとめ、県・電力事業者と交渉し、早期着工すべきだが。

答 町長 昭和44年の災害と今回の災害に対する町の対応には若干の違いがあります。昭和44年災害については、対策工事が金山町と東北電力の協議により進められました。今回は福島県が事業主体ですので、町が護岸の高さ

をどのくらいにするとか、護岸用地を確保するなど表立った業務はありません。したがって、今のところ専従職員を配置する考えはありません。河川整備計画の早期着工のためには、地区の要望を取りまとめ、合意形成をいち早く行うことが大事であります。今後の状況で判断したいと考えています。



工食用取り付け道路を延長している
本名ダム下流「導流壁工事」

『高齢者が安心して暮らせる町づくりを！』

町全体で高齢者を見守る体制を組みたい

問 県下一の高齢化の町だ。緊急課題を伺う。

一、除雪対策

問 ①3月議会で質問した対策の検討結果は。

答 町長 道路除雪、住宅の除雪等、一元的な管理の必要性については十分認識しています。しかし、この体制の整備については、なかなか難しい

問題もあり、引き続き検討していきます。

問 ②9月議会で「除雪対策は急務、新たな体制の模索が不可欠だ」と提案理由説明。具体策は。

答 町長 前述のとおり、今後も検討していかなければならぬ課題である認識しています。

二、一人暮らし高齢者の

見守り

問 現状と課題は。

答 町長 民生児童委員・地域協力員の方々に見守り活動をお願いしているほか、町でサポート事業所と契約している緊急通報システムをひとり暮らしの高齢者宅に設置しています。町で緊急に取り組みべき課題として認知

症対策があります。10月から横田と中川で取り組んでいるホットカフェの開設、認知症初期集中支援チーム、支援員の設置を始め、認知症サポーターの養成等により、町民全員がサポーターとなることを目標とし、町全体で高齢者を見守っていけるよう取り組みたいと考えています。



青柳ヨシ子議員の 一般質問

『国保税一人一万円の引き下げについて』

一律引き下げは困難

問 やつぱり高い国保税。国が今年度から保険料負担軽減のための交付金を町に交付している。その交付金と七千万円の基金の一部を取り崩せば、一人一万円の引き下げは可能だと思いが、どうか。

答 町長 国からの交付金は、低所得者の国保税軽減のためと用途を限定されています。また、国保支払準備基金については、急激な医療費の伸び等、不測の事態に備えるために設置しているものなので、国保税の一律引き下げの原資とすることは困難です。しかし、議員ご指摘のとおり、国保税への重税感はありません。町としても、準備基金を活用して、平成26年度と平成27年度に税率を前年度とほぼ据え置きにしました。県内全市町村と比較しても、平成25年度の

一人当たりの国保税額は低いほうから17番目になっています。ここ2カ年の税率を実質据え置きにしていますので、さらに低いほうの上位になっていると予想されます。一方、一人当たりの医療費は、平成25年度が29万円で県内第5位、平成26年度は34万円で県内第2位と、医療費の伸びが深刻な状況です。こうしたことから、町民の健康づくりを重点施策として実施し、医療費の伸

びを極力抑えることで国保税額の上昇を抑えていきたいと考えています。
問 国保加入世帯が441世帯、695人だと思いが、700万円あれば引き下げは可能だと思う。住民の福祉と暮らしを守るということは、自治体の基本的な任務であるはず。住民の切実な要求であるこの基本的な引き下げについて、ぜひ実現して欲しい。

答 住民課長 約700人でですから700万あれば対応は可能ですが、この国保については議員もご承知のとおり、平成30年度から県内一つの保険者になり広域化されます。現在、金山町の国保税は大変低いほうに位置しています。それが広域化になった場合は、引き上げが予想されます。そのことから、国保支払準備基金については、国保税が急激に上昇しないために有効に活用したいと考えています。



暖房には欠かせない「灯油」
今年の冬はどれだけ使うか

『福祉灯油、灯油購入への助成制度の早急な実施を』

町民全体の福祉を充実させる

問 寒い冬がやってきた。暖房用の灯油代金の一部を助成する「福祉灯油」の実施が急がれる。隣の只見町では、65歳以上で住民税非課税世帯に一人一万円の商品券で助成している。金山町でもぜひ

実施してほしい。
答 町長 町では低所得者に限らず、幅広い高齢者対策、障害者対策、さらには町民の健康づくり対策として、町民全体の福祉施策を実施したいと考えていますので、ご理

解をいただきたい。
問 金持ちと貧乏人の格差がどんどん広がっています。特に、高齢者は弱者ですから、そういうところに手厚い保護というか、手を差し伸べることは重要ではないでしょうか。

答 町長 金山町においても、特に高齢化が進んでいる先進地なわけですから、その辺のところを十分考慮しながら、弱者に優しい町政をしなければいけないということは十分認識しております。



『農林産品の加工で特産品開発、6次化産業の創出を』

挑戦していきます

問 我が町の農林産品の生産は零細だ。この少ない農林産物を活かし農家、高齢者の所得・収入につなげていくには加工等によって高付加価値産品に変えて販売につなげる必要がある。しかし町内業者は零細で自らの取組みには限界があり町の支援等が欠かせない。町の考えを伺う。

問① 赤カボチャの生産量、加工品の現状は。

答 町長 町が把握している数量、金額です。今年の生産量は、全体数量は把握できませんが、糖度計での検査を受けた個数は約1万2000個です。販売金額は、個人での販売額は把握できませんが、道の駅奥会津かねやま等での販売金額は約380万円です。加工品の現状は、道の駅等での

問② エゴマの生産量、販売金額等は。

答 町長 栽培面積は約1.7ha。生産量は約1000kg。販売金額は平成26年度の道の駅等で約180万円。エゴマ油の搾油量は平成26年度の奥会津金山エゴマの会で約

問③ アザキ大根の生産量、販売金額は。

答 町長 生産量は約50kg。販売金額は平成26年度の道の駅等で60万円です。

問④ フリーズドライの利用状況は。

答 町長 利用件数が約30件、稼働時間は約2800時間。商品開発の現状は、主に奥会津金山大自然でミニトマト、ア

問 零細事業者だけでは、限界がある。しっかりとした町の支援体制が必要だと思うが。

答 町長 今のうちだと町と一緒に対策が立てられると言う話も聞いています。道の駅などと一緒に挑戦したいと思

問 零細事業者だけでは、限界がある。しっかりとした町の支援体制が必要だと思うが。

答 町長 今のうちだと町と一緒に対策が立てられると言う話も聞いています。道の駅などと一緒に挑戦したいと思

『保養センター後継施設の管理運営等を伺う』

指定管理者制度を考えている

鉄骨組み立て等は、年内に完成し内部の工事が進められている「保養センター工事現場」

問 老朽化した保養センターの後継施設の建設が決定、紆余曲折はあったものの保養・憩いの場として町民が待ちに待っていた施設が平成28年3月末には建物の完成が予定されている。途中、建築資材等の高騰による建設

事業費の大幅な上昇もあり町民の関心も高い。施設の管理運営について町の考えを伺う。

問① 後継施設建設の総事業費は。

答 町長 用地取得費等を除き、約4億6000万円の見込みです。

問② 建設される施設の規模、主な設備等は。

答 町長 鉄骨づくり一部2階建てで、1階が560㎡、2階が70㎡、合計630㎡。入浴施設は男女それぞれ2つの浴槽を備えており、食堂と休憩施設兼用の大広間で

問③ 施設の管理運営についての考え方は。

答 町長 現在は、公募による指定管理者制度での運営を考えています。



馬場清次議員の

一般質問

『町民生活の維持向上を伺う』

それぞれ取り組んでいきます

問 少子高齢化・過疎化は進む一方で県下一の高齢化の町となり、高齢化対策は喫緊の課題です。その中で今町民が求めるものは何か、町民が安心して生活できるような、その対策について伺う。

答 タクシー、スクールバス、さらにはJR只見線、会津バスの公共交通機関が運行されています。同じ路線を重複して運行するケースもあり、町民の皆さんや金山町を訪れる人が利用しやすい効率的な体系の見直しを早急に行うことが課題となっています。町では役場内にプロジェクトチームを編成し、効率性・利便性・財政面とさまざまな角度からの検討を始めています。

問③ 若者対策としての環境対策は。

答 町長 川高生のアンケート結果で、スーパーやコンビニなどの商店の整備と、働く場所の確保の2つの意見が約半数を占めました。双方とも重要な課題であることは認識していますが、町だけの力で解決できるものではないことも事実です。今後、商工会、町内の企業・団体と連携しながら、少しでも若者が求める環境整備が実現できるように取り組みを進めていきます。

問② 金山特産品の振興策は。

答 町長 町では地域特産品は、赤カボチャとエゴマ油だと考えています。生産拡大を目指し、赤カボチャ生産農家に河川肥料の購入・電気柵購入・パイプハウス購入費の補助を行っています。また、エゴマ生産者に対しては、肥料の購入費の補助、作付拡大に向けた奨励金の支援を行っています。今後も、各生産者団体と生産拡大、品質の確保などに向けた協議を継続していきます。



雪が降り積もると道路から玄関まで大変
昨年の大雪から比べると階段の数が少ない

問② 集落の冬季対策・除雪対策は。

答 町長 除雪事業については計画的かつ効率的に実施すべく毎年見直しを行い、万全を期しています。特に道路除雪は、午前7時半までに通勤・通学に支障のないように行うことを指示しています。また、将来過疎が進んだとしても、除雪の水準を落とすことがないよう、町民の生活を維持し

問④ 集落・施設等の維持対策は。

答 町長 集落を維持するため道普請や堰普請を行っているのですが、その継続もままならない状況であることは十分認識しています。しかし、町が費用を負担して問題を一時的に解決しても、地域のコミュニティー維持には

栗城康太郎議員の 一般質問



『金山町総合戦略について伺う』

有効的な予算の執行をしている

問 町は、人口減少対策に特化した「金山町総合戦略」を策定し公表した。

答 町長 町では平成18年度より5カ年間で、「か・ね・や・ま」プロジェクトとして四つの目標を掲げているが、過去10年間の町振興計画の成果について、どのように評価・検証したか。

三次金山町振興計画後期基本計画」に基づく事業を、その後、平成23年度より5カ年間で、「第四次金山町振興計画前期基本計画」に基づく事業を実施しています。また、この間、平成23年新潟・福島豪雨災害からの復旧・復興のため「金山町復興計画」に基づく事業も実施してきました。これまでの成果として、災害からの復旧事業もおおむね終了し、生活基盤はある程度整備されましたが、町の課題である少子高齢化に歯止めをかけることはできず、十分な成果を得られていないのも事実です。

問 第四次計画の冒頭でも、「過去数十年、町が実現できなかった諸課題を見詰め直し」として順番や文言は多少変わつていても、第三次振興計画を、ほとんどそのまま引き継いでいる。一体その間何を

やっていたのか。それは、町当局も、議会も両方責任があると思う。町だけに責任があるということではない。その経過について、どのように考えているか。

答 町長 そのように私も思っております。計画というものは実践しなければ何にもならないと、絵に描いた餅になるわけです。私も常々この計画が計画倒れにならないようにするためには、これまでと同じことをやっていけば、これまでと同じ結果しか得られないと。これからは、効果の上がらなかつたものは、捨て去りながら、そして新たなものを実施していかなければならぬと、考えています。しかし、行政というものは継続でありますから、今の私の立場で全く責任がないということではなくて、過去の反省点としてこれから真摯にそれを受けとめて実践していくことが私に与えられた責任であると考えています。

問 総合戦略あるいは振興計画の後期を実現するには、町民の皆さん一人一人の協力を得ることが欠かせないと思う。町長自ら町民のところへ回って、集会所ごとでもいいと思います。ぜひ直接この内容を説明するような機会を設けていただきたい。

答 町長 暇ができれば回っているつもりですが、ご意見を真摯に受けとめ、できる限り町民の皆さんと接していくように努めていきたいと思えます。

問 「自然教育村会館」を始め数々の施設があるが、何れの施設も、その設置目的を達成出来得る状態ではないと考える。総合戦略の計画期間中に改修整備すべきではないか。

答 町長 過去に金山町が自然教育村ということ

で打ち出した事業そのものは、決して間違つた事業ではなかったと思っております。この町に合った本当にいい事業だと今でも思っています。残念ながら、それが途中で頓挫した形になっていきますが、国も将来のこの国を背負って立つ子供たちが田舎暮らしをするということが、どれだけ大切なのかということ認識しながら、国が打ち出している「農山漁村子ども体験プロジェクト」という施策も大きな予算を組んでもこれから自然教育村を推進していく必要があると、私は思っています。施設の改修方法などもこれから検討しなければならぬと思っております。子供を受け入れるだけの受け皿づくりは、しっかりと行っていききたいと考えています。



玉梨にある「教育村会館」
昭和61年に旧玉梨小学校を改造しオープン



高橋信彦議員の 一般質問

『赤カボチャは、どうなった』

消費者のニーズに応える

問 赤カボチャ生産について、糖度計の導入など積極的に取り組まれているが、検査数量や合格率など、その結果はどうだったのか。

答 町長 検査数量が1万2000個で、合格数量が約7500個です。合格率は62%でした。生産者によって合格率の差

が出たことから、原因究明を実施し、改善策については生産者にお知らせする予定です。

問 糖度計の導入で、お客様の目から見れば、品質も上がり非常に評価を得ていると聞いている。反対に生産者からすれば、不合格品の取り扱いが問題になる。どのような

にしてきたのか。

答 産業課長 合格品は、「奥会津金山赤カボチャ」として販売し、それ以外は、「赤カボチャ」として販売したり、「加工品」として利用したりしています。

かがなものか。

問 奥会津金山赤カボチャには、「ホクホクして

栗のよう」、「ねっとり甘くておいしい」と二つの性質がある。この特徴を販売に利用する考えは。

答 産業課長 関係機関とよく協議して消費者のニーズにあったものを作っていくと思っています。

『高齢者住宅の除雪支援対策について』

必ずやらなければならぬ

問 高齢者住宅の雪対策は重要課題であるが、年を重ねるごとに困難になつていく除雪に、新たな対策の考えはないか。

答 町長 社会福祉協議会が実施している福祉事業の一環としての除雪支援事業に対して今後も補助していく考えです。年を重ねるにつれて要望内

容も変わってきます。住みなれた地区で安心して暮らしていくために、社協の除雪支援事業をどのように拡充していけばいいか、また、行政として

何ができるのか、検討していきたいと思えます。

いる取組みがある。ボランティアアでは活動が長続きしない。今のうちに自宅周りの除雪をしてもらえる仕組みづくりを進めていただきたい。

答 町長 通年働ける場の確保として、高齢者世帯の除雪対策も考えられます。また、福祉協議会の補助的な事業として、

ボランティアアではない賃金を出しながらやっていく仕組みづくりが、これからは必要だとも思っています。ボランティアア任せでは、なかなか長続きしないと思っています。必ずやらなければならぬ

と思っています。



赤カボチャの検査の様子
「糖度」と「デンプン含有量」を測定



検閲式での「通常点検」の様子
目黒団長以下関係者が団員を点検

横田正敏議員の 一般質問



『防災・減災』のまちづくりについて

町民の防災意識は高い

問①町は防災力の弱まった町民をどう守って行くのか。

答 町長 豪雨災では、消防団や区長さんが、地域の皆さんを安全に避難誘導しました。町民の皆さんの防災意識は高いと考えています。

問②「消防団支援法」について、どのように認識しているか。

答 町長 地域における

防災活動の担い手確保が困難な状況となっている中で、消防団を中核として

地域防災力の充実強化を図り、住民の安全確保を図っていくことを目的とした法律と理解しています。

問③地方交付税では一般団員の年額報酬が3万6500円算定されているが、報酬を上げるべきだ。

答 町長 交付税措置として1人当たり3万65

00円が算定されています。算定基準として総額約9000万。そのうちある程度引かれるので、数千円の部分は消防の関係で来ていると確認しています。ただ、金山町の場合、広域消防の負担金が8500万あります。

そういったことも考慮しながら、報酬の改正については検討したいと思えます。

問④高齢者行方不明者の

検索依頼から初動体制や対応マニュアルは万全か。

『ミスのない投票事務を』

職員に対し強く指導する

問①町議会議員一般選挙の総括をどのようにされたか。

答 町長 選挙事務については、執行機関から独立した選挙管理委員会が管理、運営を行っています。今回の町議会議員般選挙については、選挙管理委員会で総括を行い、ミス

が生じた点については再発防止について協議したところですが、また、選挙事務に従事するのは町職員であり、町としても職員の選挙事務に臨む姿勢や実際の選挙事務の手順等を検証し、適切な事務の執行について職員に対して強く指導していく考えです。

問②交通手段のない高齢者から移動手段の確保を求める声があるが、町はどう応えるか。

答 町長 町内22カ所に投票所を設置しています。地区によっては、隣近所で自動車に乗り合い、投票所においでいただくケースもあります。投票所

の設置箇所数を維持しながら、町内全域を公平に網羅して投票所への移動手段を確保することは、現状の体制では困難です。現在の投票所設置箇所を継続し、地域の皆さんにご協力をいただきながら投票事務を進めていきたいと考えています。

問⑤只見川河川整備計画について、住民要望の早期実現のため町はどのように支援していくのか。

答 町長 住民の意見要望をまとめ地域の合意形成を図らねばなりません。住民への支援・協力は当然ですが、福島県や電力会社でできない事業などについては町の事業として実施するなど、様々な形で住民を支援する考えです。



「里山再生」

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、明るく穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私達議員一同は、先の議会議員選挙において皆様に選任をいただき、心新たに町民のための「安全で安心のまちづくり」に町と共に町政進展に努めてまいりますので、ご指導よろしくお願い申し上げます。

今、国会では「地方創生」ローカル・アベノミクスという言葉で地方再生、地方の活性化を掲げています。

町も国の進める地方創生政策に沿って「金山町総合戦略」「第四次金山町振興計画後期基本計画」を策定し、これからの町づくりを進めてまいります。

私は、これからの町づくりの一つの鍵は町の総面積の92%を占める山林・林野の活用ではないかと考えます。特に里山・里地を活かした産業づくり、自立的継続的な里山利用、里山林再生への取組みがキーワードになると考えます。

木材・林産エネルギーなどの地域資源、きのこや山菜などの自然の恵み、エコツーリズム、自然体験学習、温暖化防止、自然環境保全機能など里山は、「多くの宝物」を抱えています。

長い歴史の中で営まれてきた里山・里地での生活、これらの伝統的な里山・里地の再生・利用が、もしかすると、この急速に進む高齢化社会、過疎を救う救世主になるかも知れません。

今、里山・里地の多くは、人口の減少・高齢化の進行・社会生活の変化などにより、ほとんど手入れがなされず国全体の里山・里地が危機的な状況になっています。

里山元年。

私も今年から山野の草木一本一本を見つめながら里山との共生社会を考えて行きたいと思っています。

(奥 高伸)

農業で自立(生活)するには 農業関係者が集まり意見交換

1月29日に、農業者等と農業委員の意見交換会が役場で開催されました。意見交換会は、町内で大規模に農業を営んでいる認定農業者を始め、JA、金山普及所、町、農業委員が出席し、自立できる農業について意見交換されました。「今の特産品（赤カボチャ・エゴマ等）の規模では、自立（生活）できない」「水田経営に特産品を組み合わせれば可能だ」などの意見が出されていました。



生活できる「農業」について意見交換

ごあんない

次回の定例会は、3月10日ごろ開会の予定です。
一般質問は3月14日ごろとなります。
お気軽に傍聴においで下さい。
○役場1階の受付で「傍聴券」を受け取り
4階の議場においで下さい。

〔発行責任者〕

議長 五ノ井清二

〔編集委員〕

委員長 馬場 清次

副委員長 黒川 廣志

委員 栗城康太郎

委員 青柳ヨシ子

委員 加藤 賢享

次回、金山議会日より

第193号は、5月中旬ごろ発行の予定です。